

「品目別地球温暖化適応策レポート・工程表」について

平成19年 6 月21日
農林水産省生産局

1 目的

近年、米の高温障害をはじめ、果実の着色不良、病害虫の多発等地球温暖化の影響と考えられる農作物生育への影響が発生している一方で、高温耐性品種、高温障害回避技術等適応品種・技術が開発されつつある。

このため、今後、地球温暖化が進展することが確実視される中で、農業生産現場での地球温暖化への適応策の取組を進めるため、農業者や農業指導者の参考とすることを目的として「適応策レポート」を作成した。

2 概要

(1) 適応策レポート

都道府県報告や最新の研究開発成果等を基に、主要品目別に「生産現場における現象」「当面の適応策」「今後の対応方針」について都道府県の意見も踏まえ整理した。

○作成した品目

水稻、麦類、大豆、うんしゅうみかん、りんご、なし、ぶどう、トマト、イチゴ、花き、茶、肉用牛・乳用牛、飼料作物の 13 品目

○構成

項 目	生産現場における現象	当面の適応策	今後の対応方針
内 容	地球温暖化の影響と思われる高温障害等生産現場での現象を記載	生産現場に対し導入可能な既存技術に基づく当面の適応策を記載	今後、実施すべき研究開発、行政により取り組むべき課題を記載
具体例 (うんしゅうみかん)	○浮皮の発生 ○日焼け果の増加	○カルシウム剤の施用 ○表層摘果の実施	○発生機構の解明 ○被害軽減栽培管理方法の開発

(2) 工程表

レポートと同様の品目に対し、今後、技術開発が必要と考えられる研究課題、取り組む必要がある行政課題を短期・中期・長期に分けて、都道府県の意見も踏まえ、生産局において整理したものである。

【注】短期（今後3年以内）、中期（2030年頃まで）、長期（2030年以降）